

# 釧路南ロータリークラブ会報

第24回 例会報告 2020.1.17 通算1798回

・点 鐘 前田会長

・会 長 挨拶

・ロ - タリ - ソング

「我等の生業」



ソングリーダー 寺口 美由紀会員



今日は1月17日、25年前の今日阪神・淡路大震災が起きました。道東方面も二度大きな地震を経験していますが、この数年落ち着いているように思えます。気象庁の地震情報を見ると日本全国で年間何千回も発生しています。国土地理院で発表している地殻変動マップの情報をもとに地震予測を行うらしいのですが、北海道はおおむねベクトルの推移は安定しているようですが、異常な事態になっているのは何年も前から報道されているとおり、関東地方、東海地方、関西地方のようです。今年2020年は相当気を掛けておいた方が良いでしょう。昨年12月にNHKで放送していましたドラマ、首都直下型地震が起き、その後どうなるか、小松左京原作の日本沈没を思い出してしまいました。民放ではなくNHKが製作していることに何か意図があるのでしょうか。いずれにせよ日本経済はマヒしてしまうので他人ごとではありません。よくブラックジョークで政治家がみんな海外に移動したらヤバいぞ、と言いますが一応、政治家の動きは気にしておいた方が良いでしょう。ちなみに地震の大きさを表す震度ですが、最大震度は7であり0~7まで十段階に分かれており、この計測震度の発表により各機関の初動対応が決まっております。

・誕 生 祝

高橋 康成会員 S19.1.22 (76歳)



震度6弱で総理官邸の危機管理センターに緊急参集チームが自動的に参集されます。そして震度7では現地からの情報を待たず、甚大な被害が出ていることを前提に対応が進められます。我々も地震の恐ろしさは身に染みんでいます、自然災害から逃れることが出来ないのであれば、対策と対応を考え、常に情報を敏感に感じ取っていく事が必要不可欠であると思っております。

## ・委員会報告

### 親睦委員会 佐藤真之介会員



- ・本日のニコニコ献金  
高橋 康成会員 誕生祝として

## ・本日のプログラム

### 「 職業奉仕月間に因んで 」

担当 職業奉仕委員会

#### ◆澤山理恵職業奉仕委員長



## 《報告者 佐野 実会員》



### 職業紹介

本日は私の職業についてお話をさせていただきますが、今までも職業紹介例会で一度お話をしております。私は皆さんご存じのとおり看板業をしております、現在の看板と言えば、大型看板や壁面看板をはじめ、分かりづらい場所に便利な突き出し看板、圧倒的な存在感を感じさせる自立看板、夜間でもお店や会社をアピール出来る電飾看板、さらに一つの広告面に多数の広告や動画を掲載出来るフルカラーのLED看板など、様々な種類の看板が存在し様々な場所で目にする事が出来ます。今日はそんな看板の歴史について紹介します。

日本では、広告が初めて歴史に登場したのは大宝元年（701年）のことで、まだ看板と言われていたわけではありませんが、この年に市司（いちのつかさ）が設けられました、これは「市で商いを行う際は標（しるし）立てて商品を示せ」という内容で、店名ではなく何を販売しているのか目印を出すというものでした。これは看板ではなく、サンプル品を店頭と並べるスタイルだったそうです。又、文字が読めない人のために絵だけを書いたり、商品の形に板を切り抜いたり、ものによってはサンプルが小さい為に大きい模型を作って看板にする職業が出てきました、これが看板屋の始まりではないかと思えます。当時の平安京は東西両市が開かれており、織物や食品など様々なものが数多く扱われていたため、人々の混雑を避けるために、この決まり事が導入されたと言われています。

鎌倉末期になると屋号や商品名が入っている簡板（かんばん）が出現し、現在の看板の原型により近いものが使われていきます。

江戸時代の中期に入ると商工業の急速な発展により、目印としての役割から商売における宣伝手段として発展していきます。そして庶民の識字率向上も手伝い、独自の表現方法や形態、豪華な装飾を施す事から「絵や文字を看せる板」として看板と呼ばれ、集客効果に大きな影響を与えていたそうです。

明治に入ると西洋文化を積極的に取り入れた看板が出現します。布や板が主流だった日本の看板は、産業革命の影響もあり、使用される素材も豊富になり、印刷技術の発展によって文字のスタイルを変えたもの、カタカナやローマ字を使用したもの、目的に合わせた色彩やライトの導入など、広告媒体として大きく発展し、デザイン性はもちろん、使いやすさや耐久性など、日々看板のクオリティに高まりをみせています。明治以降はブリキやトタンなどの鉄板にペンキで描いた看板がでできます。

製鉄技術の発展とともにブリキやトタンが大量に生産され、看板としてもそのような技法で生産が一気に波及し一般的な看板が街中を染めていくこととなります。明治17年に商標登録を認めるようになったために、それ以後の看板には「商標登録」という文字がはいるようになりました。この頃から皆さんも、ご存じの懐かしいホーロー看板が、明治・大正・昭和中期まで全国に普及します。当時は今のように広告代理店やマスメディアが主流でないので、その商品のセールスマンと看板の製造業者が各地で依頼・製造・設置をしていました、ホーロー看板の設置に対する広告料は現金ではなく現物支給が多かった様です。先日阿寒湖畔に仕事で行きましたが、まりも国道の途中の廃虚の壁面に3枚の看板が残っていました、かなり傷んでいましたが、今でも古い建物に、当時の看板がたくさん残っております

現在マニアの間では高額で取引されています。(オロナミンC・オロナイン軟膏・金鳥蚊取り線香・

たばこ・新聞社・・・他)

昭和の終戦後には、高度成長期に入り急速な広告媒

体が発展します、都心ではビルの屋上に大型の広告看板が競い合って設置されました、この時代では広告媒体専門の業者がたくさんいて、良い物件があれば（土地・ビルの屋上・壁面）即契約してしまい、その後に広告主を探すというやり方をしていました、それくらい景気が良かった時代です。釧路も当時の写真を見ますと、北大通りはビルの建物が見えないくらい至る所に看板が有り、自動車の交通量も多く、歩道にはたくさんの通行人がおります、こんなに景気がいい時代はもう来ないのでしょうか。

バブル崩壊後は広告媒体の数が急激に減少してしまい、現在では看板の仕様も変わり、素材自体も新しいものになり、デジタル化したLED仕様の広告看板が主流になっております。

又、インターネットの普及に伴い、ネット広告の需要が急増しているために、屋外の広告物の数は減少傾向にあります。



## ・次回のプログラム

1月24日（金）

「 会員卓話（年男大いに語る） 」

会場 アクア・パール 12:30～

担当：会員選考維持委員会

・点 鐘 前田会長

今週の会報担当：福井克美会員